

バガンに行ってきました！

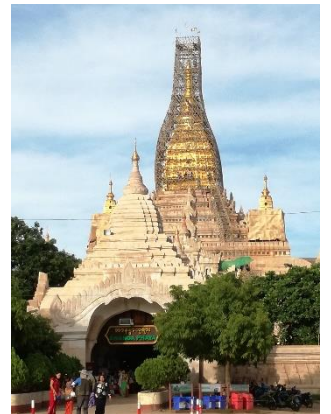
毎月初めに報告をあげよう！と頑張ってみたのですが、3回目ですまづいてしまいました。ごめんなさい。ヤンゴン日本人学校は『3学期制』を採択しており、年に3回通知表を発行します。ということは…6月に1学期中間テストを作成・実施し、そして7月に1学期期末テストを作成・実施するというかなりのハードスケジュールになっているのです。特に期末テストは今年度「理科」と「技術」の2教科を担当しているため、教師人生初の『1回のテストで6枚のテストを作成する』経験をさせてもらいました。やってみると色々学ぶことが多かったため、ぜひ次回にいかしたいと思います。ちなみに現在はというと、通知表作成に向けて成績評定＆所見下書きの真っ最中です。まだまだ仕事は山積みですが、元気に頑張っています。

さて、そんな最中ではありますが、先月 17・18 日に1泊2日でミャンマー国内のバガンへと行ってきました。残念ながら観光ではなく、仕事です。こちらの学校では中学1・2年生が「宿泊体験学習（日本でいうところの修学旅行）」に行きます。今年はその行き先がミャンマー国内にあるバガンという土地で、中学2年担任の私が土地に不慣れだと困るであろうという校長先生の配慮で、同僚の先生と下見旅行に行くことになったわけです。ひょんなことから3か月過ごしたヤンゴンを離れ、空路での出張となったのです。



地図にもある通り、バガンという土地はミャンマーの内陸に位置しています。そして東側にアラカン山脈という山脈があるため、季節風に乗ってインド洋からやってきた湿った空気が山脈を上昇→降雨→山脈を下降する時にはほとんど水蒸気が残っていないということになり、雨季の今時期でも大変カラッとしてとても過ごしやすいです。イメージは十勝・帯広の7・8月といった感じでしょうか。つまり熱帯の気候帯の中でもこの地域はどちらかという乾燥帯に近く、ヤンゴンとは全く別世界です。

そして、この地域は 11 世紀～13 世紀にかけてビルマの首都として栄え、その頃に建立された寺院や遺跡群が大量にあります。そのため「世界三大仏教遺跡」として名を馳せているそうです。下見で何カ所か寺院や遺跡を見て回りましたが、荘厳かつ立派な建築物に圧倒されるとともに、そばを流れる悠久の大河エーヤワディー（イラワジ）川が当時の都の繁栄の姿を想起させてくれる、とても素晴らしいところです。



さて…そんなバガンになぜ行くのか？という理由ですが、単に遺跡巡りだけが目的ではないのです。実は今回の下見には校長先生から1つミッションが与えられていました。それは「バガンで農業指導する JICA の方と連携し、宿泊学習の際ミャンマー国内で活躍する日本人の姿を生徒に見せ、学ばせてほしい！」というものです。そこで下見の際も JICA で農業指導に当たられている方と実際に話をし、授業のネタを探し、そして遺跡を巡っている間も、ヤンゴンに戻ってテスト＆成績処理に追われている現在も事前学習のプランを練り続けている…というわけなのです。正直どうしたものか…と悩む部分もあるのですが、ようやくプランが固まりつつあるので、頑張ってお話をしたいと思います。

ちなみにですが…このミッションの第1回目の授業は明々後日。そしてそれが校内研究の公開授業だったりします。状況的にはとても厳しい中ではありますが、自分が頑張った分生徒たちが喜んでくれるのであれば努力も実ると思います、今晚も頑張りたいと思います。

それではまた来月、ミャンマーでの生活を報告します。

